

朝日岳遥拝所 大日山



■大日山 白鷹町黒藤と浅立地区の間にある標高 300m 独立山。山頂に大日如来を祀った大日堂がある。

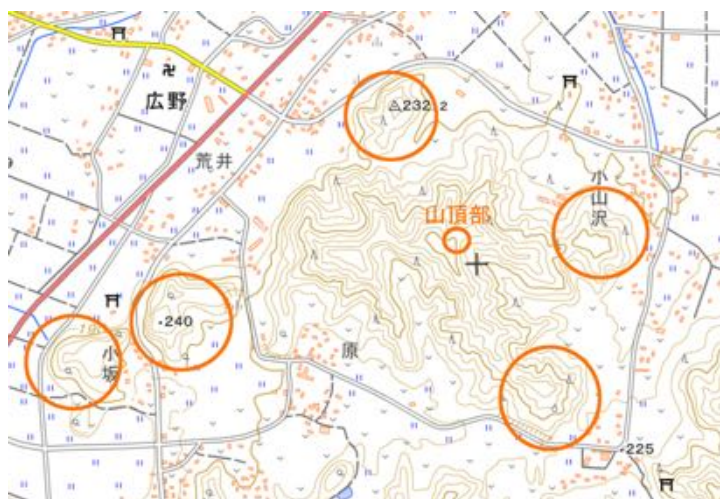
●大朝日岳山頂と祭祀場だった祝瓶山山頂の同距離にある寺社を探して見つかったのが広野観音。ときめいたが、創建は 1705 年と新しかった。後方の独立した山が気になった。右裾には小山も二つ。神奈備山に違いない。こういう山には必ずなにかしらの神様が祀られているはず。国土地理院の地図で山頂部を確かめてコンパスを回すとアバウトだが山頂とうまくつながった。三つの山の頂上が正確な二等辺三角形を作っている。考えてみると大朝日岳の山頂部も祝瓶山もピラミダル。この山は古代人が造った山かもしれない。少なくとも山頂部の位置をちょうどいい位置に造り変えたのではないかな…。妄想は膨らむ。



●白鷹・長井地区からは西側に大きな葉山があるために直接朝日岳は見えない。きっとこの山の頂上からは見えていて、ここに大朝日岳と祝瓶山を遥拝する祭祀場があったのではないだろうか。

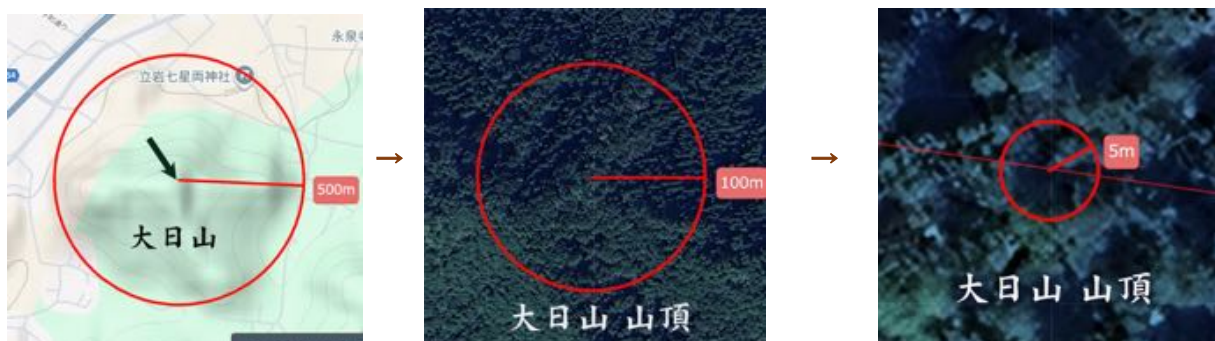
●さらに驚いたのは、調べていた宮城県名取市の熊野那智神社、熊野本宮社、そして金蛇水神社ともつながってきた。想像以上に大切な存在の山だったのではないだろうか。

●地形地図を見ると頂上が 300m。周りに 250m 位の小山が五つある。実に不思議な山に思える。この際、徹底的に調査してみることにした。



●畑で作業している年配の方にお聞きしたら「この山は大日山で頂上には大日如来が祀られたお堂がある」と、ときめく有力情報を教えて下さった。大朝日岳も大日如来の山。密教の最高神は大日如来である。この大日山が朝日岳を遥拝する山だったことはこれで確実である。ただ、朝日岳がみえるかどうかは木が茂っていてわからないらしい。登り口も教わった。幸いなことに 10 日後に山頂までの一斉草刈りをするので、その後ならスニーカーでも登れるようになると。(登山報告は末尾に追記予定)

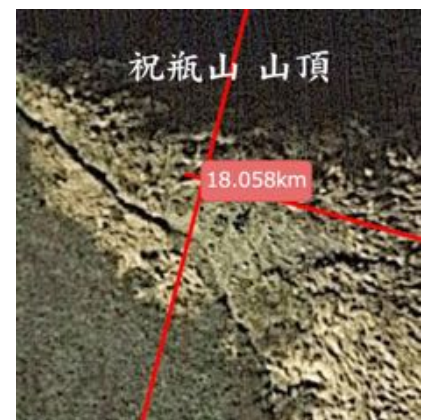
●さて、Google マップの地形図ではズームすると等高線が消えてしまう。これでは 1mm ずらしただけで 10m 以上の誤差が出てしまう。まずはアバウトでも関わる有力な寺社を探して、それから交わるピンポイントな場所を、写真地図を最大にズームして特定したのがこの場所（直径 10m 間は有りとした）。ここを起点にコンパスを回すとたくさんの祭祀線が見つかった。実際に登って緯度経度を確認すれば、ここに大日堂があるかどうかを判断できる。登る日が楽しみでならない。



大朝日岳・祝瓶山



- 大朝日岳山頂 →→18.058km→→→ 大日山 →→→ 18.058km→→ 祝瓶山 山頂
- 大朝日岳山頂 →→17.184km→→→ 広野観音 →→→ 17.184km→→ 祝瓶山 山頂



■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳 8 年（7 世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日嶽のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は



大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

●三処とは、大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。

■祝瓶山（いわいがめやま）

祝瓶山は朝日山地の主峰・大朝日岳から南南西に伸びる山稜の上に位置している。標高は 1500m にも満たないが、岩陵が発達する極めて峻険な山容を示す。このことから、俗に東北のマッターホルンとも呼ばれる。祝瓶山の北稜部が磐梯朝日国立公園の出羽三山・朝日地域に含まれている。なお、祝瓶山は、地質学的には朝日山地のほかの山と同様に花崗岩を中心とした深成岩からなる山である。



サイト やまがた山さんより拝借

■ 広野観音堂

置賜三十三観音 第 22 番（真言宗）観音堂の建立は宝永 2 年。寛永 5 年に開村された広野村の信仰の中心として建立されたと伝えられる。本尊は聖観世音菩薩立像。米沢の法音寺から寄進されたもの。創建：1705 年（宝永 2 年）白鷹町広野 2676

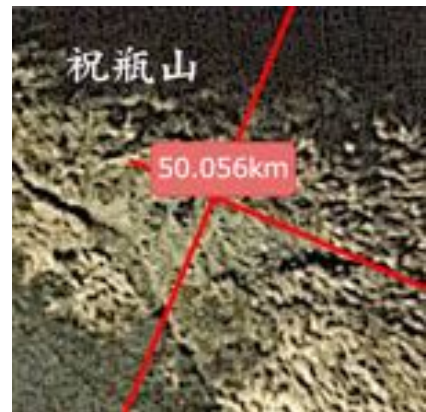
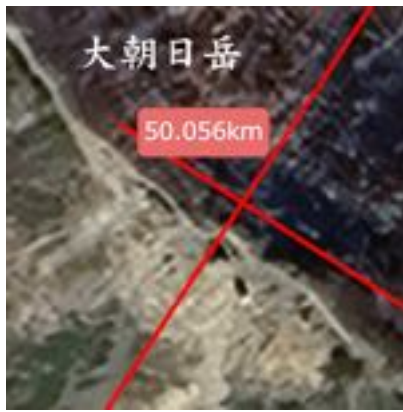


●さらにその先にも伸ばしてみた



■大朝日岳山頂 →→50.056km→→→ 愛宕神社 →→→ 50.056km→→ 祝瓶山 山頂

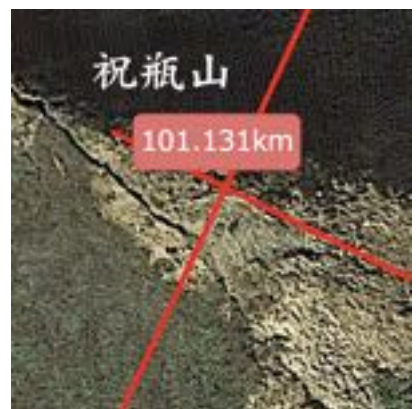
■大朝日岳山頂 →→17.184km→→→ 相馬中村城址→→→ 17.184km→→ 祝瓶山 山頂



■愛宕神社

天文 23 年（1554）9 月、関八幡館主中野常陸介及び桜井長門等発企し、山城国愛宕山より分霊鎮祭したとの言い伝えがある。後、滑津の住人安藤太郎左衛門なる者が社殿を造営した。初め愛宕山大権現と称したが明治 2 年 3 月現社号に改め、同 5 年 5 月村社に列せられた。

祭神/火産霊神 宮城県刈田郡七ヶ宿町浦山 41



■相馬中村城址

昔、この地は天神山と呼ばれていた。中村城の歴史は古く、平安時代初期の延暦年間（800 年頃）に奥州鎮撫のため坂上田村麻呂が最初に築いたとされる。南北朝時代の 1337 年（延元 2 年）には、周辺を配下とした中村朝高がこの地に「中村館」を構えた。以後、戦国時代初期まで中村氏の支配が続いた。

1868 年（明治元年）の戊辰戦争では、中村城は明治政府軍の攻撃を受けて陥落し、陥落後の中村城は明治政府軍の支配拠点となった。そして、1871 年（明治 4 年）の廃藩置県によって廃城となった。

●もともと坂上田村麻呂の城跡だった。胆沢城、紫波城と同じくアテルイ・モレが斬首された後の築城と考えられる。朝日岳の神気を引き込んで固い守りとしたのだろう。天神もどこかに祀られていたはず。

大沼の浮島 弁天島

■大日山 →→20.011km→→→ 大沼の浮島 弁天島 →→→ 20.011km→→→ 杉沢観音

■杉沢観音

本尊は一木造りの聖観世音菩薩像。奈良時代の高僧・行基の作像。

お堂の建立は大同年間、飛騨の匠による造作と伝えられる。

嘉永年間に建立された山門には一対の赤仁王が鎮座する。掲げられたわらじは1.5～2mもある見事なもの。

白鷹町の九札所中、仁王門があるのはここだけ。山門は1848年建立。

10年に一度約2mのわらじ奉納がある。本尊は1906年に火災で焼失し秘仏となった。昭和27年に再安置（再彫刻）。

境内には数多くの石碑・石仏があり、信仰の深さが伺われる。

御本尊/聖観世音菩薩

白鷹町畔藤 164 付近



■大沼の浮島 弁天島（出島）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数32あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」とあると記されている。白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟

子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼



お島様（浮島）

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。しかも波を立てずに動く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福も連れてきた海童たち（秦族）も蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「弁天島（出島）」(写真)が起点となっている。大沼浮島は、全国に散らばる浮島神社の総本宮ではないか。そして、多くの神社の神池に浮島のごとく島が作られ弁財天や市杵島姫（瀬織津姫）が祀られているのも本来はこの分社だったのではないだろうか。池に囲まれた古墳すらも浮島に見えてくる。古代史を探る時、きっと浮島信仰は重要な鍵になるとと思われる。

●行基つながり。杉沢観音は、朝日岳信仰の二つの拠点から神氣を得られる場所に祀られた。



大沼



神々しい弁天島（出島）

富神山



■富神大明神（富神山頂） →→17.833km→→→ 大日山 →→→ 17.833km→→ 富神明神社



■富神明神社

当神社はきれいなピラミッド型をしている「富神山」（標高402m）の南麓に鎮座しており、「富神山（に宿る神）」を祀った神社と考えられている。昭和52年に圃場整備事業に伴って行われた発掘調査によれば、当神社社殿を中心に半径20～24mの環状列石が発見された。そのほかに、石器や土器片なども出土しており、縄文時代後期頃の遺跡とされた。環状列石については、未発掘部分も多く詳細は不明ながら、土坑など埋葬の跡が発見されていないこともあり、祭祀施設と考えられている。なお、当神社の御神体は約1mの木造の男神像で、烏帽子や袍などを着用しており、14世紀頃の作と推定されているという（非公開）。なお、「日本三代実録」貞観13年（871年）条に「出羽国の利神に従五位下の神階を授与した」という記事があるが、一説に、その「利神（とのかみ）」が「富神山」の神である



るという。(サイト 「神が宿るところ」より抜粋)

●昇る太陽を崇拝していた出雲族富家の神社に違いない。山頂で日の出を拝んでいる姿が想像できる。麓の神社の掲額がそのものずばり「富神社」。ストーンサークルの中央につくられた富神明神社は、大朝日岳につながる大日山から神氣を得られるように建てられたことがわかる。いずれ実際に登って感想を付け加える予定。

薬師寺

■ 広野観音 →→6.846km→→→ 薬師寺 →→→ 6.846km→→ 大日山

■ 薬師寺 薬師堂

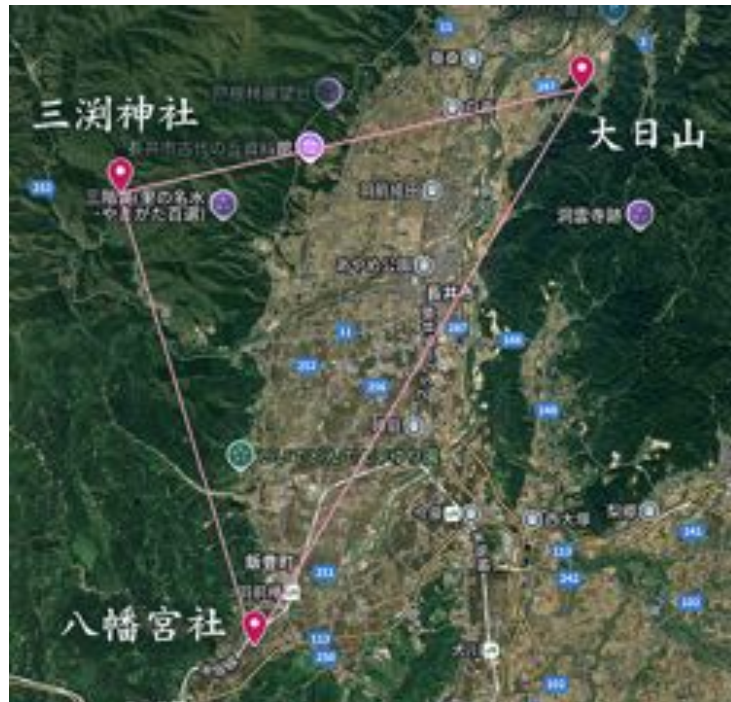
創立以来、何度か火災にあり詳細な寺史は不明だが、現存する仏像や書物から推測すると、天文 24 (1555) 年の銘のある薬師如来の厨子が残されています。本尊は薬師如来坐像、正しくは薬師瑠璃光如来という高さ 40 cm ほどの坐像。この他、宝物や石碑など文化財が多くあり、最近では、位牌堂、本堂、薬師堂玄関の桁に荘厳な彫刻の四季の絵柄が施され備えられました。

長井市あら町 2-1

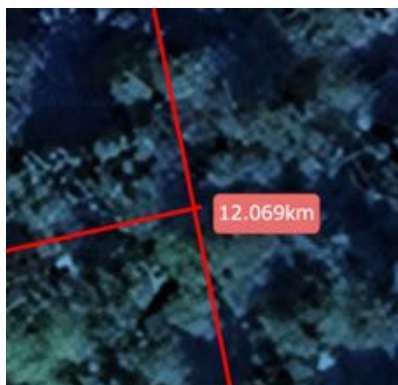


サイト「ようこそ長井」より拝借





■大日山 →→12.069km→→→ 三淵神社 →→→ 12.069km→→ 八幡宮社



■三淵神社跡地

總宮神社の奥の院。ダムに沈むために近くの高台に移された。
今から約 1000 年前、安倍貞任・宗任兄弟を討つため源頼義とその長男の義家（八幡太郎義家）が東北地方に攻め入りました。貞任は、娘である「卯の花姫」と一族を送り、長井を守らせました。

しかし、卯の花姫は敵である義家に恋をしていました。義家は、貞任・宗任を手強い相手と知り、ひそかに卯の花姫にたくさんの手紙を送りました。手紙には、貞任が降伏すれば貞任の身の安全を保障することや戦の後に結婚を約束することが書かれていました。卯の花姫は戦を早く終わらせたい思いから、義家に貞任の戦略を漏らしてしまいます。しかし、これは戦略を聞き出すための義家の作戦だった



のです。戦略を聞き出すことに成功した義家は、各地での戦で勝利を収め、ついに貞任を戦死に追い込みました。そして、貞任の戦死後、義家からの手紙はぷつぷつと切れてしまいました。

貞任の戦死の知らせを聞いた姫は、義家に騙されたことに気づき「父を殺したのは私だった」と涙を流し大いに嘆きました。悲しみも束の間、義家軍は長井郷へと攻め込んできました。安部軍は大軍にこらえかね、朝日岩上の僧侶達を頼るしかないと、姫は三淵を訪れ、神に祈りを捧げました。しかし、義家の大軍に取り囲まれたことを知ると「もはやこれまで…」と数十丈の岩の絶壁から三淵へ身を投げました。すると卯の花姫は龍神となり、三淵の水神様となりました。

総宮神社の奥の院である三淵の主は竜神で、9月の例大祭の際には奥の院の竜神が野川の水に乗って神社へ下ると伝えられており、黒獅子はその化身だといわれています。

●総宮神社の宮司さんのブログ「ぐうじのほほん」で三淵神社に参拝に行く様子が写真で紹介されていた。その中で、「ダムに沈む前の三淵神社は立ち枯れした杉の木の所にあった」と説明してある。よく見ると沢が入り込んでいる所だったので、グーグルの写真地図と照らし合わせて場所を特定した。

■八幡宮社

詳細不明 西置賜郡飯豊町小白川 9



●わずか 460m ほどのところに、もう一つ八幡神社があるのは義家公へのリスペクトだろうか？

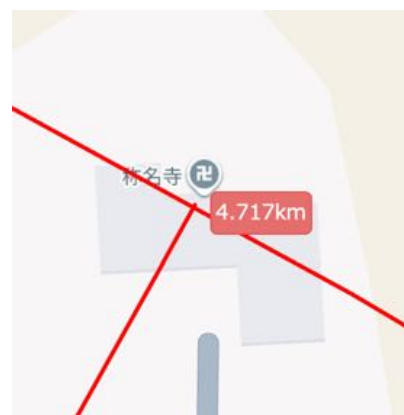
対照的なのは、八幡神社は明るい町中にあるが、八幡宮社はうっそうとした森の中に鎮座している。



称名寺・勸進代総宮神社



■勸進代総宮神社 →→4.717km→→→ 大日山 →→→ 4.717km→→ 称名寺



■称名寺

創建は天平18年(746)、奈良時代の高僧である行基菩薩によって開かれたのが始まりとされます。伝承によると行基菩薩は十王像を笈で背負って来たとされ、その故事が転じて地名の「十王」が起ったと伝えられています。当初は法相宗の寺院でしたが、永和元年(1375)に高野山(和歌山県伊都郡高野町：真言宗総本山)の僧、我光和尚により真言宗兼学となっています。(山形県の町並みと歴史建築サイトより抜粋)

西置賜郡白鷹町十王3527



■勸進代總宮神社

長井市勸進代地区は、長井市の西北に位置し、西に 1200m の葉山を望む戸数 220 戸ほどの大字の地区で地区内にあった八幡神社、熊野神社、皇大神宮など合祀した「総宮神社」である。ここの例大祭が春は、5 月 3 日、秋は 8 月 15 日、16 日である。祭には、長井市内の他の神社と同じように「黒獅子」が出る。その昔、安部貞任の娘、卯の花姫が源義家に恋し、義家が卯の花姫を裏切ったことから、それを嘆き悲しんだ姫が置賜野川の源流三淵に身を投げ竜神と化した。その竜神を表したのが黒獅子と云われる。長井市勸進代 1361



●またもや行基。大日山は行基が開いたのではないだろうか。

八乙女八幡神社・鮎貝八幡宮



■鮎貝八幡宮（鮎貝城本丸） →→3.987km→→→ 大日山 →→→ 3.987km→→ 八乙女八幡神社
■子守堂 →→3.987km→→→ 大日山



■八乙女八幡神社

寛治元年(1087 年)、**源義家**公が東夷征討の際当地にて敵軍の勢いが強く進軍出来ずにいると源義家公の夢に八幡大神が現れ、素晴らしい作戦を授けられた。これに従い見事敵軍を打ち破り進軍が可能になる。その後御楯付近にて弓矢を立て八人の乙女に舞樂を奏させ京都・石清水八幡宮を遙拝させたことが当社の起こりであり社名の由来と伝えられる。

祭神/応神天皇、仲哀天皇、神功皇后

相殿神/大国主命、伊弉諾命、伊弉冉命、稻倉魂命、保食命、大山祇命

白鷹町荒砥甲 1 0 9 2

■鮎貝八幡宮

康平 3 年 (1060 年)、鎮守府將軍としてこの地に下降した**源義家**が八幡神を勧請し、錦旗を神体として社地を定めて祀ったのに始まると伝えられる。江戸時代には領主・上杉氏の祈願所とされ、近隣 18 か村の総鎮守と定められた。明治 31 年 (1898 年) 鮎貝城本丸跡の現在地に社殿を移築し、遷座した。明治 33 年 (1900 年) 近くの八幡森にあった稻荷社を合祀した。祭神/応神天皇

白鷹町鮎貝 3303-1

●どちらも八幡太郎義家の創建。明治に現在地に遷座したがそれ以前は鮎貝城本丸だった。

■子守堂

「子守堂」とは、昔桜の側に子守堂の祠を建てて籠守大明神を勧請したことに由来する。伝説によると、鮎貝城主本庄家三代義長公 (1721~1745) の子供はいずれも早世であった。最後に残った三女の以津子姫も病弱で、殿様はいつも気かけ心配していた。ある日、一人の童女が屋敷を訪ねてきて、「私を子守に」と申し出たので、これを以津子姫の子守にしたところ、病弱だったことが嘘のように丈夫に育った。殿様はことのほかこれを喜び、ある日この子守に褒美を与えようと呼んだが、忽然といなくなってしまった。夕方になっても城にもどらず、まわりを探させたところ、桜の木の根元に履いていた草履だけが置いてあり、数日たっても戻ることはなかった。

本庄家の人々は、この子守は仏の化身だったのかもしれないと、籠守大明神を勧請し祠を建てて祀ったと云う。以津子姫はその後丈夫に成長し、それからは家系の絶えることもなかったと云う。西置賜郡白鷹町大字鮎貝字桜館 3347 番

梨郷神社・萩生観音



■萩生観音堂 →→10.299km→→→ 梨郷神社 →→→ 10.299km→→ 大日山



■萩生観音堂

寺の開基は建保3年(1216)、越後の実義僧都によると伝えられる。当時は長手山の斜面に建てられていたため「長手観音」とも呼ばれたが、その後現在の地に移築された。

本尊は木造の十一面観世音菩薩坐像。昔から災難除けに御利益があるといわれ、戦時中は兵士が銃弾を受けないように願をかけたという。飯豊町萩生3171付近

■梨郷神社

前身である天王寺は神仏習合であり、勧学院として当時の権限は誠に壮大なものであったと伝えられています。さらに、木食泰賢行者が慈覚大師の助言のもとにこの地に毘沙門堂を開設し講社を始めたと言

われています。また、金比羅神社は、西暦 1247 年に後深草天皇の勅願を蒙り、四国本山の神の兄弟である金津大神を鎮座したとされています。塩釜神社は正元元年（1259）8 月創設と伝えられています。その後、領主伊達政宗公が深く神徳を敬い、家臣増田摂津守に命じて祠を建立させ、社領 25 石を賜りました。慶長年間上杉氏の領となり、明治 5 年 4 月 25 日に村社に列せられます。

明治 43 年 2 月 17 日に塩釜神社（砂塚地区）、八幡神社＝神宮皇后（梨郷地区）、稻荷神社（竹原地区）、宮ノ浦八幡神社＝応神天皇、八千鎰神社＝毘沙門天（和田地区）の 5 つの神社を合併、新たに梨郷神社と改称し、大正 7 年に現在の地に遷座されました。

祭神/金比羅大神、毘沙門天、八幡大明神、伏見大明神、八千鎰大明神、塩竈大明神

南陽市竹原 984

●昔、朝日岳登山をした時に鳥原小屋脇にある朝日嶽神社に梨郷村の人から奉納された鉄剣がいくつもあったことを思い出した。

大谷天満宮



■大朝日岳 →→23.139km→→→ 大日山 →→→ 23.139km→→ 北野天満宮



■大谷北野天満宮跡 創建不詳

大谷地区には、西野天満宮、北野天満宮、高木天満宮、峯壇天満宮の四つの天神様があり、古くから村人の崇拝を受けてきました。白田内記家・外記家は、菅原道真の子孫であるといわれ、そのため代々天神信仰が厚く、大谷の四天神は白田一族と関わりのある人が建立したといわれています。

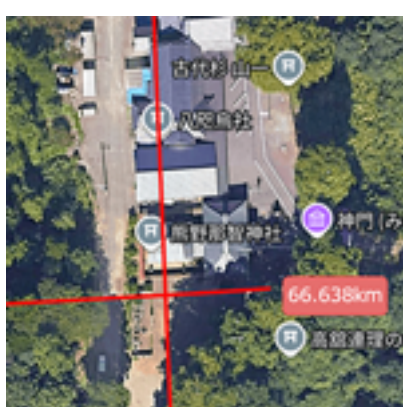
※『大谷郷』より抜粋 西村山郡朝日町大谷

●大谷地区にあった四天神のうち北野天満宮だけは山手に置かれたのはなぜだろうと思っていたが、これが理由なのだと思う。

名取市熊野那智神社・熊野本宮・金蛇水神社



■熊野那智神社 →→66.642km→→→ 大日山 →→→ 66.642km→→→ 熊野本宮社
八咫鳥神社 →→66.642km→→→ 大日山 →→→ 66.642km→→→ 金蛇水神社



■熊野那智神社

伝説によると、養老3年(719年)閑上浜の漁師が海底から御神体を引き上げたところ、その光の輝きの止まる所が高館山であったことから、そこに宮社を建て羽黒飛龍神として祀ったという。一方「閑上」の地名の由来として、貞観13年(871年)に霊験あらたかな十一面観音像が波に揺り上げられているのを漁師が見つke、それが現在高館山の那智神社に那智観音像として安置されている、という話も伝わっている。

その後、名取老女の熊野三神勧請にあたり、那智の分霊を当社に合祀し熊野那智神社と改称した。近世は伊達家の厚い崇敬を受けて、社殿の造営や社地の寄進などを受けた。明治元年(1868年)の太政官布による神仏分離令を受け、社殿に奉納されていた御正体である懸仏などが関係者によって密かに埋められたが、明治31年(1898年)7月の拝殿移築の際床下から再発見された。このうち、懸仏・銅鏡41点が国の重要文化財、懸仏・銅鏡114点が宮城県指定有形文化財となっている。かつては御神体が揺り上がった場所である閑上浜までの浜降り神事が行われ、正月には「カラスゴ(牛王宝印)」を氏子に配布していた。

■熊野本宮社

名取熊野三社の一社として保安元年(1120年)に創建。創建当時は現社地より500m程南西の小館という小高い丘に鎮座していた。また地名も紀州熊野本宮大社の大齋原に準えて大原と称していたという。源頼朝が奥州平泉東征をする際、当社に武運を祈願し軍に赴き霊験あらたかな様を覚え、文治5年(1189年)9月再び詣でて深く謝拝したと伝えられている。それ以来武家諸公の崇敬が篤く、永禄6年(1563年)12月、奥州探題伊達晴宗より熊野本宮本殿屋根葺替並びに神輿、神馬、馬具等が奉納されている。万治元年(1658年)に現社地に遷座。現本殿は元禄6年(1693年)に建て替えられ、長床、鐘楼、神輿殿などの建物が建てられた。また昭和8年(1933年)に拝殿、社務所、摂社を建設し、昭和58年(1983年)に本殿を営繕し幣殿、社務所の建替え整備が行われている。社地の前には熊野本宮大社の傍を流れる川に見立てた音無川が存在する。また、当社には古く山伏によって伝えられたという市指定無形民俗文化財の熊野堂十二神鹿踊が保存継承されている。

主祭神/熊野櫛御家都御子大神、熊野牟須美大神、熊野速玉之男大神。他に11柱神を配祀する。

■金蛇水神社

創始年代不詳。人々がこの地に住み農耕をはじめた時に、山より平野へ水の流れ出るこの場所に水神をおまつりしたものと思われる。社名については、次のようにつたえられている。平安時代中頃一条天皇の御代、京都三条の小鍛冶宗近は、天皇の御佩刀を鍛えよとの勅命を受け名水を求めて諸国を遍歴してこの地に至り、水神宮のほとりを流れる水の清らかさに心をうたれた。早速、水神宮に祈願をし、炉を構えて刀を鍛え始めたが、カエルの鳴き声で精神統一ができず、よい刀が打てずにいた。そこで宗近は巳のお姿をつくり、田に放ったところカエルはピタリと鳴き止んだ。無事素晴らしい刀を鍛え上げることができた宗近は神への感謝のために巳のお姿を献納し都に帰った。以来、水神宮ではこれを御神体と崇め、社名も金蛇水神社と称するようになったと言う。

祭神/金蛇大神(水速女命) 古くよりこの地に祭られる水の神。古来、龍や蛇は水神の化身とされる。

相殿神に 大己貴命(大国主命)・少彦名命をお祭りしている。宮城県岩沼市三色吉字水神7

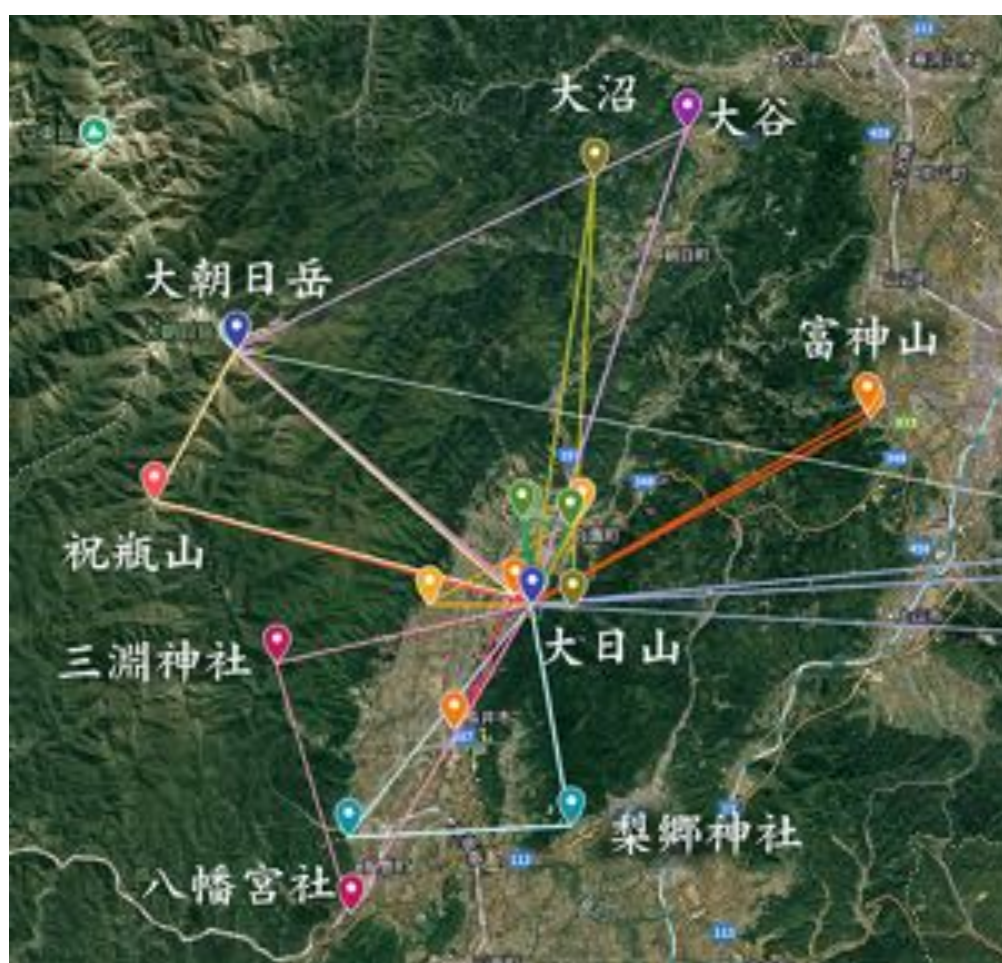
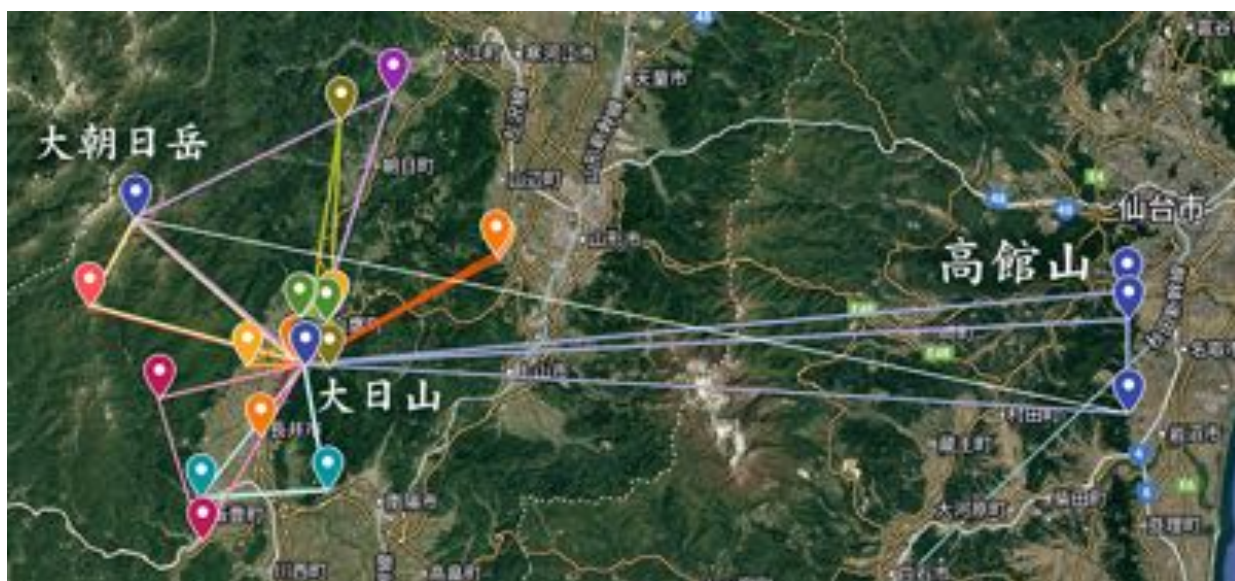
●金蛇水神社の御祭神は水の神様の金蛇大神（水速女命）。これはミヅハノメと読めるので出雲系の瀬織津姫とも推定されている神様。朝日岳信仰とつながっていておかしくない。出雲系神社なら社殿は聖地へ向いている場合が多いのだが、やはり熊野那智神社と熊野本宮社の社殿は大日山に向かうラインと同じ角度でかたむけて建てられている。しかし、金蛇水神社は角度がかなり北に傾いている。謎は簡単に解けた。建物の角度に合わせてラインを引くと大朝日岳にぶつかる。朝日岳を遥拝するように建てられた金蛇水神社が最も古いことがわかる。



まとめ

●大日山とつながる祭祀線は、探せばまだまだいくらでもつながりそうだ。大朝日岳と祝瓶山両方の神氣を得られる山だから、朝日岳信仰が隆盛を誇っていた時代には大切な拠点の山として大日山信仰があったに違いない。現在はマップに大日山の表記も載らず、大日堂も普段は草に覆われて行けないほど、地元の人たちだけの聖地となっている。朝日岳信仰は、出雲族の聖地だったがゆえに、義家と貞任の戦いや北条執権時頼の千年封じなどによりその火は消された。拠点だった浮島の大沼では朝日岳信仰の欠片すらも見つけれられない。大谷の金輪寺・大圓寺・平圓寺、そして長井の川口寺・岩上寺においては、一般にはどこにあったのかさえもわからなくなってしまった。同様にこの大日山信仰も小さくされてしまったのだろう。

闇に覆われ混沌とした現代、縄文出雲時代のような平和の光を望む時、もう一度朝日岳信仰の火が大きくなることを心から願わずにいけない。



(2025 年 9 月 6 日記 竜天太陽)

●草刈り日の二日後、ついに大日山に登れると楽しみに行ってみたが、残念ながら…

登れたのはすぐ手前の小高い丘でそこに大日堂の祠が祀られていた。

落胆したが、きっと頂上まで登って祀るのは大変なので、里宮的に集落の裏山に祀ったのだと思った。新しいお堂の後ろに古い祠も残してあった。

そこから尾根伝いに登れる道がないか探してみたけれど見つからなかった。もう誰も頂上までは登らなくなったのだろうかと不安になった。なかなか地元の人が外にいらっしやらないので聞き取りもできないが、もう少しがんばってみようと思う。(2025. 9. 9)

